

2021年2月5日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 小椋 健司

フィリピン国ダルトンパス東代替道路建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2021年1月22日(金) 14:00~17:30
- ・場所：オンライン会議 (Teams)
- ・ワーキンググループ委員：小椋委員、織田委員、掛川委員、林委員、山崎委員
- ・議題：フィリピン国ダルトンパス東代替道路建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】フィリピン国ダルトンパス東代替道路(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第121回委員会)

- ・日時：2021年2月5日(金) 14:00~17:17
- ・場所：オンライン会議 (Teams)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

代替案の検討

1. 代替案の検討においてはその比較検討のプロセスと重みづけの考え方等を明確に記載すること。

スコーピング・マトリックス

2. 雇用機会が男性に偏った場合は却って性別格差拡大など負の影響もありうること、また、女性や子どもに対するハラスメントや性暴力増加の危険もありうることを DFR のスコーピングに反映させること。

環境配慮

3. 代替植林地の選定にあたっては候補地の本来の植生を調査しその結果に配慮するとともに DENR（環境天然資源省）や FMP（森林管理事業）関係者との協議、情報交換を踏まえ、適切な植林地及び樹種の選定等に努めること。
4. 本事業は、厳正保護区（SPZ）の指定は未定であるも、保護区を通過することから、JICA ガイドライン（以下、「JICA GL」）FAQ（2016年2月5日改正）に記載されている例外的に事業を実施するための5条件の充足を踏まえながら、PAMB（保護区管理委員会）の条件に従い必要な緩和策を提案すること。また、SPZ の地下をトンネルが通る場合についてはフィリピン国内では長大トンネル建設の事例がないことから注意深く検討し、想定される環境社会配慮面の影響を DFR に反映させること。
5. 南北の既整備区間での教訓を確認すること。且つ南側区間の IEE の緩和策の実施状況も確認し、それらの教訓を本調査の緩和策に活用すること。

社会配慮

6. バイパス開通後、現道の通過交通が減少することが推測されるため、現道沿いの通過交通を対象に営む事業に対する経済的損失の発生有無にかかる調査を行うこと。また、損失が生じる可能性が高い場合、現道の事業に対する生計回復を講じるよう実施機関に提案すること。
7. 本事業に関しては、路線確定前に通過あるいは影響を受ける可能性のある balan-gai の提示に基づき MOA (Memorandum of Agreement) を締結、CP (Certificate Precondition) が発行されているが、JICA GL にある FPIC (Free, prior, and informed consultation) プロセスに基づく適切性および、必要な場合追加的に取るべき対応について調査を通じて確認し、DFR に記載すること。また、苦情システムや雇用義務におけるジェンダーバランスについて追加的対応を提案し、DFR に記載すること。
8. 既存の ADS DPP（先住民族持続的開発保護計画）を踏まえた緩和策や要望の汲み上げを行い、IPP、RAP 策定に際しては、ADS DPP との整合性に留意すること。

9. 文化遺産の影響調査については、計画地周辺の先住民族固有の文化遺産（例：先住民族の神聖な場所を含む）についても調査を実施し、その結果を DFR に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

10. COVID-19 感染防止対策を踏まえてステークホルダー協議を行うことになるが、先住民族の人たちが安心して意見を述べられるよう適切な方法・期間で協議を実施すること。

以上